

17-2 授業解題

授業者：森脇 正博 先生

授業タイトル：新・貿易ゲーム～今、私たちにできること～

教科（領域）：道徳

対象：小学6年生

1. グローバル人材育成の観点からみた本授業の「強み」

本授業は、国際理解教育や社会科教育においてしばしば使用される有名教材「新・貿易ゲーム」を、小学校道徳科の時間に活用するという試みである。貿易ゲームは、参加者がグループに分かれて「国」となり、配布された資材を用いて「他国」と「貿易」を行うものであるが、資源や技術の分配などの初期設定を工夫することによって、不公正や格差を含むグローバル経済を疑似体験することができるようになっている。

それを用いた本授業の強みは、①商品生産のグローバルな理解という抽象的な学習課題に実感的に取り組めること、②そのプロセスに織り込まれた価値葛藤にコミットすることで、フェアネスという道徳的価値をグローバルな文脈において考えることができること、の2点にまとめることができる。それは言い換えれば、グローバル世界における経済的効率と社会的公正を同時に追求する経験ということであり、それが小学校6年生という発達段階に即して展開されている点が重要である。実際、ゲームをプレイする子どもたちから、ゲーム（グローバル世界）の「不公正」を感じ取った発言、「他国」の状況を気遣う発言（フェアネスへの入り口）などが発せられたことは、この授業の成果を物語っている。またそのようなゲーム中の心の動きが、授業のまとめにおいて全体の理解として丁寧に確かめられていた点も、授業としての完成度を示している。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発に向けて

授業の主題や構成から言って、まさにグローバル・エシックスと呼ぶに相応しい本授業の課題としては、（すでに本授業の指導案でも意識されていたが）他教科との連携が挙げられるように思う。例えば、グローバル経済における効率と公正という問題は、まさに社会科の学習課題の一つであり、地理や歴史の学習の中で多国間関係とその葛藤を深く理解しておけばおくほど、このゲームのなかで生じる出来事の意味もより実感的に理解できるようになると思われる。また、授業内では開発が生み出す環境負荷についても触れられていたが、こちらも社会科や理科の学習との連携のなかで、相乗効果を期待できる。

道徳科はしばしば狭義の「心」の指導が突出して強調されがちであるが、実際のところ道徳性（あるいは「心」）とは、知的な能力を含んだ人間の総合的なちからである。このような教科横断的な理解と試みのなかでこそ、本授業の本来的な位置づけや真価がさらに明瞭になるように思われる。